

# 自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2003.12.16 No.9

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## クリスマスツリー（モミの木）

町中のあちこちにクリスマスツリーの飾りが見られる季節になってきました。クリスマスツリーの習慣はキリスト教からきたものと思いがちですが、キリスト教本来のものではなく、ケルト民族の常緑樹をうやまう習慣からきたものとの説がありますが、クリスマスツリーに飾りをほどこしキリストの誕生を祝う習わしにヨーロッパや北米ではモミの木を使っています。

このモミの木を使うようになったことについて次の話があります。

森の木を愛し、森の精と毎日仲良く遊んでいた木こりの娘がいました。外へ出られない冬、少女は戸口のそばのモミの木に小さなロウソクをつけて遊んでいました。クリスマスの前夜、父親の木こりが山の中で道に迷いました。途方にくれ歩き回っていたところ、一本のモミの木にあかりがついていました。思わずかけよると、それはただの木でした。だが、また遠くのモミの木にあかりがついています。きこりは次から次へ、あかりをたよりに歩き、無事に家へ帰ることができました。　－北方植物園（朝日新聞）より引用－

モミは北海道には自生していませんので、モミ属のトドマツの若木をクリスマスツリーに使っているようです。

トドマツのトドの漢字は撥で、トドマツの枝が毎年1段ずつ輪生するところからきていて、輪生の数を観察すると成長の度合いを知ることができます。また、観察会で話ができるように葉の先が二裂になっていることは、エゾマツとの違いを識別する観点の一つです。

トドマツもエゾマツもマツ科ですが属が異なります。マツ科の樹木は次のような属に分類されています。

マツ属　ハイマツ　キタゴヨウ　アカマツ　クロマツ　ストローブマツ　モンタナマツ等

カラマツ属　カラマツ　グイマツ等

トウヒ属　エゾマツ　アカエゾマツ　ヨーロッパトウヒ等

ヒマラヤスギ属　ヒマラヤスギ

ツガ属　ツガ　コメツガ

モミ属　トドマツ　ウラジロモミ　シラビソ　アオモリトドマツ等

学名、マツ属はPinusの意味はケルト語のPin（山）にもとづき、モミ属Abiesはモミの一種の古いラテン名です。このようにトドマツはモミ属なので、トドマツではなくエゾモミと呼ぶべきとの学者もいるくらいです。

北海道では木造建築でこの材を多く使っていますが、アイヌの人々も、トドマツの幹と松葉（枝）で冬山で狩猟をするとき利用する仮小屋を作ったといわれています。

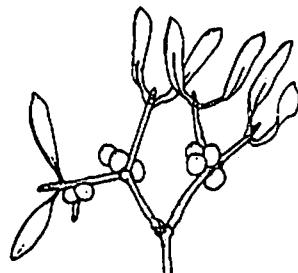
アイヌ語でトドマツのことを「フプ」といい、この語を冠した地名も多いといいます。それは、かってはトドマツの純林がいたるところに分布していたからなのでしょう。支笏湖畔の風不死岳もフップシヌプリ（トドマツ・群生する・山）もその一つです。

## ヤドリギ

ほとんどの木が葉を落とした林の中で、大型の鳥の巣のような塊が枝や幹についているのが目につきます。ヤドリギです。赤い実をつけているものをアカミヤドリギといいます。このヤドリギは雌雄異株の寄生植物で、他の樹木（宿主）の枝や幹の一部に付着して、吸根と呼ぶ寄生根を侵入させて養分を横取りします。しかし、自身も葉緑体を持っているので同化作用で栄養をつくりだし、双方で生活をされています。このような植物を「半寄生植物」といいます。葉緑体を失っていて、すべての栄養を宿主に頼る植物を「全寄生植物」といいます。

ヤドリギの学名は *Viscum album* で、属名 *Viscum* はラテン語のとりもちの意味で、果肉がねばるところからきています。野鳥はこの実を好み、くちばしに粘りついた種子はほかの木にこすりつけられたり、フンとして枝上などに残され、樹上繁殖を続けます。

北欧神話によると、ヤドリギは大罪を犯したため、天上にも地上にも住むことができず、中間の木の上に住まわなければならなくなつたとの話があります。また、クリスマスの装飾品に使われ、信仰の対象になる神聖な植物とみなされてもいます。一方、デンマークの国境近くの地方では、この枝を持つと幽霊と話ができるとの伝説もあります。日本でも、古くは「ほよ」と呼ばれ縁起物に使われたことが万葉集に載っています。ヤドリギは常緑であり他の植物と違った形態を持つため多くの伝説や物語が作られたのでしょうか。



## 鳥の羽

野鳥たちは冬の寒さからどのように身を守るのでしょうか。鳥の全身は羽で覆われています。

正しい言い方をすると、鳥の体の表面は羽毛で覆われています。鳥は爬虫類から進化したと言われ、羽毛は鱗の変化したものです。羽毛には基本的に「正羽（真羽）」と「綿羽」そして「半綿羽」があります。正羽とは英語でフェザーと言い、共同募金の赤い羽を連想すれば分かるように、一般に鳥の羽といって普通に思い浮かべるもので、飛行にかかる役割や体表面を覆って空気抵抗を減らします。一方、綿羽はダウンと呼ばれ綿のように柔らかいふわふわした羽毛で、正羽の下に密に生えていて、断熱と防水に大きく役立っています。私たちはこれらを使いダウンジャケットや羽布団として重宝しています。半綿羽とは正羽と綿羽の中間的なものです。野鳥が冬の寒さから身を守るためとの観点で羽毛を観察してみてはいかがでしょう。

### 来年の観察会は？

野幌森林公園での観察会は1月はお休みです。2月は、2月20日（日）大沢口コースの予定です。ふれあい交流館集合になっています。

1月にはボランティア・レンジャー協議会の主催で、円山ツボ足登山観察会を予定しています。道筋はきちんと踏み固められていて登りやすいです。昨年の観察会ではクマゲラが見られました。冬の観察と運動不足解消に多くの皆さんの参加を期待しています。

円山ツボ足登山観察会 平成16年1月16日（日） 10:00~12:30

集合場所 円山公園大師堂登山口